

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際化・グローバル化に対応した教職員スタッフの充実	→外国籍教員および外国での教育・研究歴をもつ教員の比率	B	B			
2. 国際化・グローバル化に対応した教育課程の充実	→国際化、グローバル化などに対する理解を深める科目の設置	B	B			
3. 国際化・グローバル化に対応した学生受入体制の充実	→受入時のオリエンテーション、学期途中・期末における出席/成績管理、アンケート調査・面接による実態調査など留学生受入体制の整備	B	B			
4. 国際化・グローバル化に対応した語学能力の涵養	→必修科目「英語表現」において学生の使用言語も英語に限定する	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いすれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (方針) 「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスを実現する」との大学の方針に沿って、学部の国際化・グローバル化を推進する。 (説明) 学部においても学部国際交流委員会を設置し、外国人留学生について春学期・秋学期にアンケート調査と教職員および外国人留学生との懇談会を実施するなど、留学生の受け入れ態勢の整備を進めている。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 (説明) カナダのマウント・アリソン大学(MTA)との協定を締結した。5年間(本学2.5年、MTA2.5年)で本学とMTAを卒業し、双方の大学からそれぞれ学位を授与されるダブル・ディグリー制度を設置した。2011年度入学生より適用する。
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	3	3	3	3	3	3	・5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	3	3	3	3	3	3	・5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	26	29	39	41	37	42	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	6	3	2	3	3		・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.0	1.0	1.4	1.5	1.3	1.5	・外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1		
	その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		人数	長期	人	19	18	7	14	23		・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	32	16	35	28	33		・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.7	0.6	0.3	0.5	0.8		・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	1.2	0.6	1.3	1.0	1.1		
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	1	0	0	0	1		・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	4	2	1	0	0		・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	1	1	0	1		・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	51	55	51	37	54		・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	0	0		・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%				11.1	13.5			

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

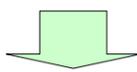
(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目 7.0.1		
★小項目 7.0.2		
その他		
↓		
【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目 7.0.1		
★小項目 7.0.2		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】《次年度に向けた方策》	
★その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】
 ○「多文化共生」の考え方に基づく国際化の進展は優れています。委員会組織やアンケート調査、懇談会などの実施は優れたものと思います。さらに、カナダの大学との「ダブルデGREE制度」は積極的な交流に役立つものと評価できます。

【学内委員】
 ○海外からの受け入れ学生数、海外への派遣学生数がいずれも増加傾向にあることは評価できます。
 ○国際交流に関する大学の方針に沿って、具体的に学部国際化方針が示されている点は評価できます。具体的な国際交流策として、カナダのマウント・アリソン大学とのダブル・デGREE制度を設置している点も評価できます。今後は、さらなる国際化の進展を目指した積極的な行動が望まれます。
 ○目標の実現に期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--